

日大一般入試 N方式について

日本大学の推薦入試も落ち着きを見せ始めた時分となりました。これから先は一般選抜へ向けた動きが活発化していくこととなります。一般選抜に臨む生徒には、受験校の絞りこみと受験スケジュールを具体的に考えてもらっています。他大学を受験していく生徒も多くいますが、日本大学を一般選抜で受験する生徒もいます。本記事では、日本大学で行っている「N方式」という一般選抜の受験を紹介します。

- 正式名称
日本大学一般選抜統一入試 N全学統一方式
- 特徴
一回の受験で複数の学科を併願することが出来る
今年度は最大10併願(学部・学科)まで可能
- 入学検定料
1学科あたり18,000円(医学部60,000円・歯学部24,000円)
- 入試日程
第1期:2月1日 第2期:3月4日
- 付属校生向け
今年度も第1期における入学検定料の免除

「受験シーズンが本格化する前の2月1日に受験できること」と、「検定料が免除されること」から、一般選抜を考える生徒には絶好の機会となっています。高3希望者を対象として、12月2日(土)に説明会を実施し、3学期始業式に出願作業を学校で行います。

松戸歯学部説明会

11月4日(土)に、日本大学松戸歯学部より、感染免疫学の泉福英信教授にご来校いただき、松戸歯学部についての説明を行っていただきました。この説明会は、松戸歯学部より本校対象の説明会を、とお声がけいただき、本校の希望者が1名だったにも関わらず実現したものです。当日は高2の1名に対して、泉福先生に1時間を超える講話をしていただきました。

泉福先生は、本校豊山の卒業生で、卒業後に松戸歯学部に進学されました。国立予防衛生研究所(現・国立感染症研究所)で研究員を行ったり、その間にハーバード大学へ留学したりした経験を経て、現在は松戸歯学部の教授をされています。

松戸歯学部は2021年に創立50周年を迎え、現在新校舎を建設中で、2024年より新しい校舎の運用が開始されるそうです。学部生は、大学2年生までに基礎的な学力を身につけ、3年次からより専門的な知識の学習が始まります。大学1年次で学んでいる基礎知識も国家試験に出題されるそうで、1年次からの知識を5年後の国家試験受験まで身につけていなければならないようです。5年時から臨床実習がありますが、その実習を受けられる=5年に進級するため、国家試験の予備的な試験であるOSCEという共用試験に合格しなければならないそうです。歯科医師になるためには、勉強の日々であるということが伺い知れた説明でした。

このほかにも、先生の専門である口腔内の細菌類の話などもあり、充実した1時間でした。

「歯医者はコンビニと同じくらいある」と言われた時代は団塊世代の話であることや、そもそも地方には歯医者が少ないことなどもお話しされておりました。国家試験は年々難化しているそうですが、松戸歯学部では早い段階からそのための対策を行っています。歯科医師を目指している方は、ぜひ志望先の一つとして検討してください。

高3生からのアドバイス ～面接試験編～

日本大学や他大学へ進学予定の高3から、今年度実際に受けた面接試験について高1、2へ向けてアドバイスを書いてもらいましたので、是非参考にしてください。

- ★想定通りの質問が来る事は少ないので予想しなかった質問が来ても慌てずに考えて答える。
- ★志望動機は必ず聞かれるのでキーワードを考えておく。
- ★志望動機と将来の夢をはっきりさせておきましょう。なんとなくで学部を志望することはないと思いますが、自分の気持ちをしっかりと言語化させておくのが大事です。
- ★面接練習は念入りに対策しましょう。
一度必ず先生に志望理由書を見せて添削してもらった方がよいです。先生、親など誰でもよいので模擬面接・面接練習をして慣れましょう。しっかり受け答えができれば大丈夫です、落ち着いて頑張ってください！
- ★あらかじめ質問される内容を予想して、その回答を考えておきましょう。
過去の「小論文・面接アンケート」は各学科だけでなく学部全体の回答を読んで面接に備えましょう。
- 面接指導講演会の資料を何度読んでも、そして講演を何度聴いても、いざ本番になると、緊張して頭が真っ白になり全力を出せなくなります。面接練習を入念にしてください。学校内で話したことのない先生に面接練習をお願いしてみるのもいいかもしれません。やればできる！！いつか伸びる可能性に挑め！！
- ★メモは用意して直前まで見てもよいが、それに囚われすぎると想定外の質問をされたときに対応がよりぎこちなくなるので、メモの通りに忠実に話そうとしない方がよい。
- ★オープンキャンパスに行った時の感想や研究室や教授の名前は覚えておいた方がよいです。
- ★控室で面接票に記入する時間は、呼ばれる順番によって短い事があるのでしっかりと考えておいた方がよい。その中に書けない漢字が無いかも確認しておくともいいと思った。
- ★面接票というものがある。そこには{高校の学内活動(3行)、趣味/特技(行無し)、本校志望の動機(5行)}という項目がある。志望の動機はもちろんのこと、学内活動も書くことを決めておくこと。(ちなみにできるだけテキパキ書かないと面接の時間が来てしまう)
- まだ明確に決まってないところは正直に言う。面接官もわからなかったらわからないと言ってねと言ってくれた。無理に答える必要はない。
- 面接室がかなり広いことで、マナーにおいて定番でやるようなものがないところがある。予めそれも練習しておく必要がある。面接室では4人の受験生がそれぞれの席につき、そこにそれぞれの面接官がいる。入口は1つで、仕切りがなく、場合によっては手前の席を通過して奥の席につくことがある。
- 口頭試問では、答えがわからなかった場合解説がつく。それと同時に大学に入るまでにやっていくべきことを言われる。
- ★色々なことを深掘りされると思い、志望理由書に書いた内容である程度されそうな質問に対しての回答を準備していたが、志望動機を聞かれるだけで終わり、それよりも学術的な活動・課外活動についての質問がほとんどだった。志望理由書に書いた内容について、全てにその説明と具体例を言えるようにした方がよいと思う。



高2小論文テスト ～志望理由書～

高2では、次の日程で小論文テストを実施します。
 《実施日》1回目 1月10日(水)/2回目 2月14日(水)
 高校2年生の小論文テストは、「志望理由書」を書くテストです。志望理由書とは、進学を希望する大学等に対し、自分がどれほど進学したいと思っているかを伝える文章です。志望理由書は、「①意思提示」「②志望したきっかけ」「③社会的意義・具体的なビジョン」「④まとめ」という4部構成で書くことが多いです。
 まず①の意思提示では、その大学等に入りたい気持ちを、具体的に学びたいこと・目標などを掲げて書きます。
 次に、②の志望したきっかけと③の社会的意義・具体的なビジョンについてです。大学等の先生方が知りたいことは「うちの大学で学びたい」という熱意だけではなく、「この学生は将来どのように社会に貢献できるか(Social contribution)」ということです。高2の皆さんは、総合的な探究の時間で「現代社会が抱える諸問題」に向き合ってきています。そのため、志望理由書も「〇〇大学で学びたい」ということだけでなく、「〇〇大学で学び、将来的に社会を～する方向に変えたい」という形で書いてみましょう。その際、きっかけとなる現代社会の諸問題について、自分の経験を交えて語れるとより良いでしょう。

さて、志望理由書を書くにあたり、その大学等で何が学べて、どのような研究ができるかなどを知っておく必要があります。事前課題(冬季課題)として「マスターノート」が配付され、冬季休暇中にそれを全て埋めてくる必要があります。そのために、現時点でのもので構いませんので、第一志望となる「大学・学部・学科」を決めて、それについてよく調べてください。特に、その大学・学部・学科の「アドミッション・ポリシー」を調べましょう。アドミッション・ポリシーには、大学側の「こんな学生がほしい」という思いが書かれていますので、「私はそれに適合する人材ですよ!」ということが伝わる志望理由書にしましょう。

高1小論文テスト ～ステップ基礎小論文～

1月10日(水)の5・6時間目に小論文テスト①が実施されます。小論文は、学科試験だけでは測ることのできないさまざまな力を見ることができるために入試に採用されています。論理的に物事を考えることができるか、テーマを理解して論じることができるかはもちろん、文章によってどのような性格かということまで読み取れてしまうと言われています。また、社会常識があるのか、世の中のことを知っているのかということも見られています。物事を知らないと出題されたテーマに対しての問題点を見つけることができず、自分の感情だけを書いてしまうただの作文になってしまいます。日ごろからニュースを見たり、一般常識を学んだりすることも必要です。

小論文と聞くと「大学入試のために必要なものだけど、小論文テストが出題されない進学方法を選べば大丈夫!」と思っている人もいないでしょうか。しかし、小論文を書くにあたって学ぶ「文章を書く能力」というのは、大学に入ってからレポート作成や卒業論文に必要です。さらに社会人になってからも文章を構成して人に読んでもらう機会はたくさんあるので、今のうちから基礎をしっかり固めて将来に役立てるようにしましょう。また、人に自分の考えを伝える能力はいわゆるコミュニケーション能力です。身につけることができると人間関係を円滑に進めることができます。こちらも社会で生きていくために必要不可欠な力なので、この機会にぜひ学んでおきましょう。

初めて小論文を書く人も多いと思いますので、今学期中に小論文を書くための事前学習をし、冬季課題として「書き方ノート」を配布する予定です。2月14日(水)の3・4時間目に小論文講演と小論文テストもあります。この機会を利用して文章を書く力をしっかりと身につけましょう。



受験生の味方UCAROの紹介

皆さんはUCARO(ウカロ)を知っていますか? UCAROとは、大学横断型受験ポータルサイトのことで、全国の2023年度受験生約48万人のうち、実に80%以上が利用していると言われています。今回はこのUCAROについて紹介します。



大学受験の際には、インターネット上で各大学のマイページ登録を行います。その前段階として、各大学の出願条件やスケジュールを調べることになります。そしてその後の受験、入学手続きまで各大学の情報を一元的にまとめて管理できるようになるのがUCAROになります。このサイトでは、以下のことができます。

- ① オープンキャンパスの日程管理
- ② 大学情報管理
- ③ 出願情報管理
- ④ 受験番号管理
- ⑤ 出願から入学手続きまでのスケジュール管理
- ⑥ 受験後の成績開示請求

9月に始まる総合型選抜から、2～3月の一般選抜までを考慮すると、大学受験では10校前後の大学を受験をする人が多いので、このようなサイトを利用して一括で管理をすることが大切になります。

また近年では、GMARCHのような難関大学の一部で、出願の際にこのUCAROを通して入試要項を請求するように指定されることもあるので、事実上登録が必須となっている側面もあります。

大学受験は学力のみならず、スケジュール管理や情報戦略も必要になります。1～2年後を見据えて、今のうちにこのポータルサイトを見ておきましょう。

12月の進路行事			月
12月1日(金)	日大付属推薦合格発表 (高3)	日	
	追加募集実施学部学科発表 (高3)	(高3)	()
12月2日(土)	追加募集セクション申告届提出 (高3)	(高3)	()
12月5日(火)	追加募集セクション結果発表 (高3)	(高3)	日直

追加募集の流れについては、上記のように基礎学力選抜と同様です。過去の記録を見ても、追加募集が出る学部は12月1日になるまでは分からず付属推薦の結果次第にはなりますが、もしも対象になった場合はすぐに対応できるように準備を怠らないようにしましょう。

12月14日(木)までに大学入学共通テストの受験票が本校に届きます。高3の受験予定者には終業式の日に配布するので、その内容を必ず確認して下さい。また、付属推薦等に合格していた場合、共通テストの利用で他大学を受験することはありませんが、必ず受験をするようにして下さい。付属生以外の受験生は共通テストを受験して大学生になる人も多いので、1月でも自分の学力を維持できるようにしましょう。

次回1月号は、12月21日(木)発行予定です